

私の知らない間に支えてくれていた税金

菊池市立旭志中学校 2年 坂本 琉香

六年生の時に租税教室があり、町の整備や災害対策、教科書無償など色々な所で税金が使われていると学びました。しかし、実際に税に関する作文を書くとなると、何も思い浮かばず母に聞いてみました。

「ねえ？税金で助かっている事って何かある？」

との私の質問に母からは思いもよらない言葉が返ってきました。その言葉は、「助かっている事だらけよ。」

だったのです。

「まず一番最近では家の前の道路が陥没したでしょう？すぐ補修された。あれも税金だよ。」

と言われてびっくりしました。本当に身近な所に使われていると実感したからです。

この他にも母は、熊本地震で祖父母宅の納屋が半壊し、解体した時の費用や、私達子供が病院を受診した時の窓口負担がない事、年に三回支払われる児童手当がある事、祖父が脳卒中で倒れた時、高額医療制度で支払った医療費が一部返ってきてすごく助かった事などを話してくれました。

「本当に助かっている事だらけだね…。」

と、私が言うと、母は

「特に一番助かったと思うのは児童扶養手当よ…。」

と話し始めました。「児童扶養手当」とはひとり親家庭の生活の安定と自立を助けるために支給されるお金です。母は私が2才の時に離婚し、母子家庭で私を育てていました。

「あのお金があったから生活ができたといっても間違いじゃないよ。」

と話す母の顔は昔を思い出したのか少し暗い顔をしていました。何気なく聞いた税金の事で、私の今までの生活をこんなにも税金が支えてくれていたんだと知り、これからもっと税金について知っていきたい。と強く思いました。また、母はこうも話してくれました。

「離婚ができて母子家庭になった事で児童扶養手当をもらえて、社会的に守られた気がしたけれど、離婚をしてもらえず、別居していた時期は手当でももらえず、保育園も預ける事ができず、仕事もしなければならなかったから本当に辛かった。「今」を生きるのが精一杯で、どこに相談して良いか分からず、毎日泣いていたよ。今はもっと相談しやすくなって支援が届くようになってきているから良かったよ。」

と。

これから今まではなかった支援が必要になってくる人が増えてくると思います。私達家族が助けられたように、本当に支援が必要な人にきちんとお金が支給されるように、私が大人になったら、きちんと税金を納めようと思いました。